

# 協同の発見

第318号  
2019.5

きょうどうのはっけん



## 全国よい仕事研究交流集会2019

②

### ◎ 全国よい仕事研究交流集会2019 分散会

#### ・各分散会報告(第1分散会～第20分散会)

佐藤 信之/小高 拓己/金 良姫/山本 侑一郎/西畑 勤/小川 勇気/松本 賢二/  
相良 孝雄/原田 修介/松田 康/山本 亨/川合 良輔/宮澤 宏樹/二日市 忍/  
清水 武徳/酒見 友樹/館花 みく/三浦 靖典/中山 沙耶/篠原 健太郎

#### ・全国よい仕事研究交流集会 分散会 コメンテーターよりコメント

里見 喜久夫/麻生 裕子/香川 秀太/馬場 康彰/宮崎 隆志/鎗木 奈津子/鈴木 岳/池本 修悟/青竹 豊/  
尾原 浩子/走井 洋一/藤野 雅弘/向井 忍/村上 了太/松本 裕文/伊丹 謙太郎/尻無浜 博幸/志波 早苗/  
白井 和宏/川本 健太郎/佐藤 博/江花 和郎/前田 健喜/北島 健一/中西 大輔/前山 総一郎/松本 典子/  
下村 幸仁/清水 冬樹/玉城 直美/丹羽 健司/南出 吉祥/高畑 明尚/向井 清史/林 薫平

#### ・労働者協同組合の「よい仕事」の見える化

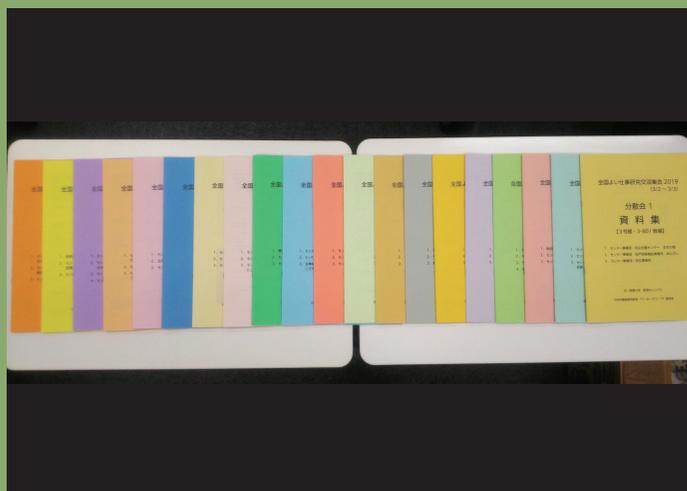
－全国よい仕事研究交流集会2019分散会の選考方法と基準－ 相良 孝雄・荒井 絵理菜

### ■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.26)

永島 祐一 事業所を居場所に地域の人が輝ける場所づくり

### ■巻頭言

田中 夏子 協同労働の必然性は、少し外から照らし出される。その外からの灯りをどうキャッチするのか



一般社団法人 協同総合研究所  
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字/藤原 桂州

# 協同の発見

第318号 2019.5

## 特集 全国よい仕事研究交流集会2019 ②

### 目次

#### 巻頭言

協同労働の必然性は、少し外から照らし出される。その外からの灯りをどうキャッチするのか ..... 2  
田中 夏子(日本協同組合学会会長/総理事)

#### 特集 全国よい仕事研究交流集会2019 ②

特集にあたって ..... 4

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)

全国よい仕事研究交流集会2018 分散会名簿一覧

#### ◎各分散会報告 ..... 8

第1分散会	佐藤 信之	第2分散会	小高 拓己	第3分散会	金 良姫
第4分散会	山本 侑一郎	第5分散会	西畑 勤	第6分散会	小川 勇気
第7分散会	松本 賢二	第8分散会	相良 孝雄	第9分散会	原田 修介
第10分散会	松田 康	第11分散会	山本 亨	第12分散会	川合 良輔
第13分散会	宮澤 宏樹	第14分散会	二日市 忍	第15分散会	清水 武徳
第16分散会	酒見 友樹	第17分散会	館花 みく	第18分散会	三浦 靖典
第19分散会	中山 沙耶	第20分散会	篠原 健太郎		

#### ◎全国よい仕事研究交流集会 分散会 コメンテーターよりコメント ..... 114

第1分散会 里見 喜久夫(季刊『コトノネ』編集長)、麻生 裕子(連合総合生活開発研究所)  
第2分散会 香川 秀太(青山学院大学)、馬場 康彰(日本医療福祉生活協同組合連合会)、  
第3分散会 宮崎 隆志(北海道大学)、鎗木 奈津子(厚生労働省)  
第4分散会 鈴木 岳(生協総合研究所)、池本 修悟(ユニバーサル志縁センター)  
第5分散会 青竹 豊(日本協同組合連携機構)、尾原 浩子(日本農業新聞)  
第6分散会 走井 洋一(東京家政大学)、藤野 雅弘(厚生労働省)  
第7分散会 向井 忍(地域と協同の研究センター)、村上 了太(沖縄国際大学)  
第8分散会 松本 裕文(釜ヶ崎支援機構)、伊丹 謙太郎(千葉大学)  
第9分散会 尻無浜 博幸(松本大学)、志波 早苗(くらしサポート・ウィズ)  
第10分散会 白井 和宏(市民セクター政策機構)  
第11分散会 川本 健太郎(立正大学)、佐藤 博(雄勝なごみ会)  
第12分散会 江花 和郎(新潟ろうきん福祉財団)、前田 健喜(日本協同組合連携機構)  
第13分散会 北島 健一(立教大学)  
第14分散会 中西 大輔(滋賀地方自治研究センター)、前山 総一郎(福山市立大学)  
第15分散会 松本 典子(駒澤大学)  
第16分散会 下村 幸仁(山梨県立大学)、清水 冬樹(旭川大学短期大学部)  
第17分散会 玉城 直美(沖縄キリスト教学院大学)  
第18分散会 丹羽 健司(矢作川水系森林ボランティア協議会)、南出 吉祥(岐阜大学)  
第19分散会 高畑 明尚(琉球大学)  
第20分散会 向井 清史(名古屋市立大学大学院)、林 薫平(福島大学)

#### ◎労働者協同組合の「よい仕事」の見える化

- 全国よい仕事研究交流集会2019分散会の選考方法と基準 - ..... 192

相良 孝雄・荒井 絵理菜(編集部)

#### ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.26)

事業所を居場所に地域の人が輝ける場所づくり ..... 198

永島 祐一(センター事業団 戸田蔵地域福祉事業所 所長)

労協連だより 高成田 健 ..... 202

研究所だより 相良 孝雄 ..... 203

巻頭言

## 協同労働の必然性は、少し外から照らし出される。 その外からの灯りをどうキャッチするのか

田中 夏子（日本協同組合学会会長/総研理事）

3/3に開催された全国よい仕事研究交流集会の第19分散会報告内容を元に、本集会で考えたことを記したい。

### ◆副産物豊かな「小さな図書館」

長野県高齢者生協南信センター「みんなの家」の「小さな図書館」の取り組みは、小規模多機能型居宅介護施設の一角に、ふと、不思議な時空を生み出す役割を持っていて魅力的だ。村立図書館との連携で、冊数は限定的だが、頻繁に入れ替え、購入希望図書のリクエストにも応えている。期待するところは、介護施設の利用者や家族以外の人たちとの接点となり、つながりができることである。平日は就労組合員も利用できる。当初、就労組合員の反応は必ずしも積極的ではなかったようだが、本を通じて利用者とのコミュニケーションが充実する場面もあり、今は「やってよかった」と前向き。地元新聞にも取り上げられ、賛同した地域組合員\*1からは七百冊が寄せられたという。

報告からは日常から発した小さな着想を育てていくことの面白さが浮上し

た。当初からこうした効果が見込まれたわけではないものの、やってみると多くの副産物が生まれていく、そうしたプロセスが仕事空間に張り合いをもたらすのではないかと。

### ◆高度な専門性を探求するからこそ、必然化する地域での連携

ワーカーズコープふじさわ放課後等デイサービスたんぼぼは、重症心身障がい向けのデイサービスで、親御さん、市行政、そしてワーカーズコープとが立ち上げた、市民立ともいえる事業所だ。制度が前提とする人員ではリスク対応に不安がある。制度を大幅に上回る組合員を配備し、「障がいに起因して）発信しにくい子どもたち」に文字通り寄り添ったケアを行なう。藤沢市の補助金を活用しているとはいえ、経営的にはギリギリだ。しかし学卒後の障がい者の社会参加の場づくりや、生活介護・支援事業の立ち上げなど、ニーズは明確なのに、事業所単独では到底対応が難しい。そんな思いが膨らみ、市内の他の事業所との間で協働、連携

\*1 高齢者生活協同組合の場合、就労していない地域組合員（サービス利用やサロン活動参加等）がそ野広く存在する。

が構想されつつあるという。

◆社会連帯活動は、団づくりを後押しできるか？

仙台のけやきの杜、荒町児童館の、報告内容は地域とのつながりを開拓する「畑隊」と「防犯マップづくり」が中心だったが、分散会参加者の関心は、団づくりが難航する中、「現場が分解しように」なりながらも、どうやって社会連帯活動を手放さずに、むしろ深めることができたのか、という点だった。一度人間関係が難しくなると、膠着し、内部で解決するのは難しい。畑隊や防犯マップづくりが、地域の人たちに注目され、評価されたことが、就労組合員の自分たちの仕事に対する確信につながり「みんなでやりたいことに挑戦できる場」との思いが少しずつ共有されていったという。

◆協同労働の必然性は、少し外から照らし出される

私は、自分が高齢協の非就労の理事となって以降、この集会に参加するのが楽しみになった。研究者として関わっていたときも発見や感動があり、大学の職場に置き換えて考えるのも面白かった。しかし現在は、もう少し自分の日常に引き付けた聞き方になっている。目下の関心は、「協同労働」というワークスコープの発明を、高齢協の

現場での応用も含め、どう活かすか、だ。

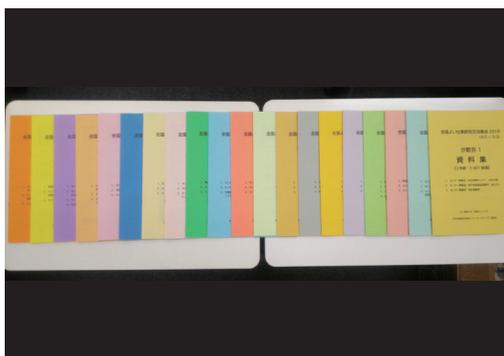
「地域に踏み出す」とか「社会連帯活動」を言い出すと、慢性的な人手不足の中、「日々の事業を滞りなくやり遂げること」「目の前の利用者さんへのケアをしっかりとやること」を最優先すべきで、「地域へのアプローチは次の段階」との意見に必ず出会う。当然だ。しかし、目の前のことを固めてから、その後地域に踏み出すべき、というごく当たり前の順序が、ワークスコープの実践では覆されていることが、今回の諸報告からも明らかだ。

職場で協同労働のワークショップを実施すると、圧倒的に「意見がいいやすい」「上下関係に縛られずものが言える」「みんなの意見が尊重される」等、職場の人間関係にコメントが集中する。身近な働く仲間相互の信頼関係は何より大事だ。利用者からの反応はもちろんだが、もう一回り広げた社会からの認知や、地域からの「一緒にやりませんか」とのメッセージが、就労者相互の関係に終始しがちな協同労働を解きほぐしていく。ただ、地域との関係を深めていく過程で、何がどう生まれるかは未知で、生まれないかもしれない。しかし、地域の声に耳を傾け、一緒に考え、やりたいことを持ち込んでもらい、共にとりくむ場面を積み重ねることで、協同労働のすそ野がひろがるはずだ。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。



●今月の表紙

20分散会で使用した20冊の資料集。1分散会3本の報告なので全部で60本の協同労働の実践を深める。2日間でのべ965人(全体会509名、分散会456名)が参加し、37名ものコメンテーターにご参加いただく。このようにダイナミックな学びの場を通じて、さらに「よい仕事」を創造する原動力を作り出す。

所報 協同の発見 5月号(通巻 318号)

2019年5月15日(毎月1回15日発行)

編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所

代表／島村 博

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F

Tel 03(6907)8033 Fax 03(6907)8034

Email [kyodoken@jicr.org](mailto:kyodoken@jicr.org) URL <http://jicr.org/>

郵便振替口座 00140-7-552949

定価 1,300円(本体 1,204円)